

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	10

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会 ～できることから始めよう～」事例発表者を募集します！（11/12 締切）

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。

全国の小さな自然再生の担い手が集い、全国の取組みを共有し、今後の更なる推進に向けた議論を行う「小さな自然

再生サミット2019 神戸大会」を2019年1月26日（土）、27日（日）に神戸にて開催致します（次頁チラシ参照）。

そこで、水辺の小さな自然再生に取り組まれている皆様から、本サミットで取組事例を発表していただける方を募集します。

ご応募頂いた方には JRRN 事務局より調整させて頂き、11月16日（金）までに決定する予定（同日、参加者募集も開始予定）ですので、皆様のご応募をお待ちしております。

「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」での事例発表者の募集

●サミット概要（次頁チラシ参照）

- (1) 日時：2019年1月26日（土）13:30～18:00（サミット）、18:30～（懇親会）
2019年1月27日（日）9:00～11:00（現地視察@住吉川）

- (2) 場所：神戸デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）1F ギャラリーA

■募集する事例の数

5事例程度 ※全15事例程度の発表を予定しており、現時点で決まっている事例は3頁をご参照ください。

■発表形式

指定なし（例えば、パワーポイント（PPT）を用いた発表、PPT 以外でも可）
発表時間は質疑応答を入れて10分（発表7分、質疑応答3分が目安）

■発表に係る謝金・交通費の支給

謝金・交通費は支給しませんのでご了解ください

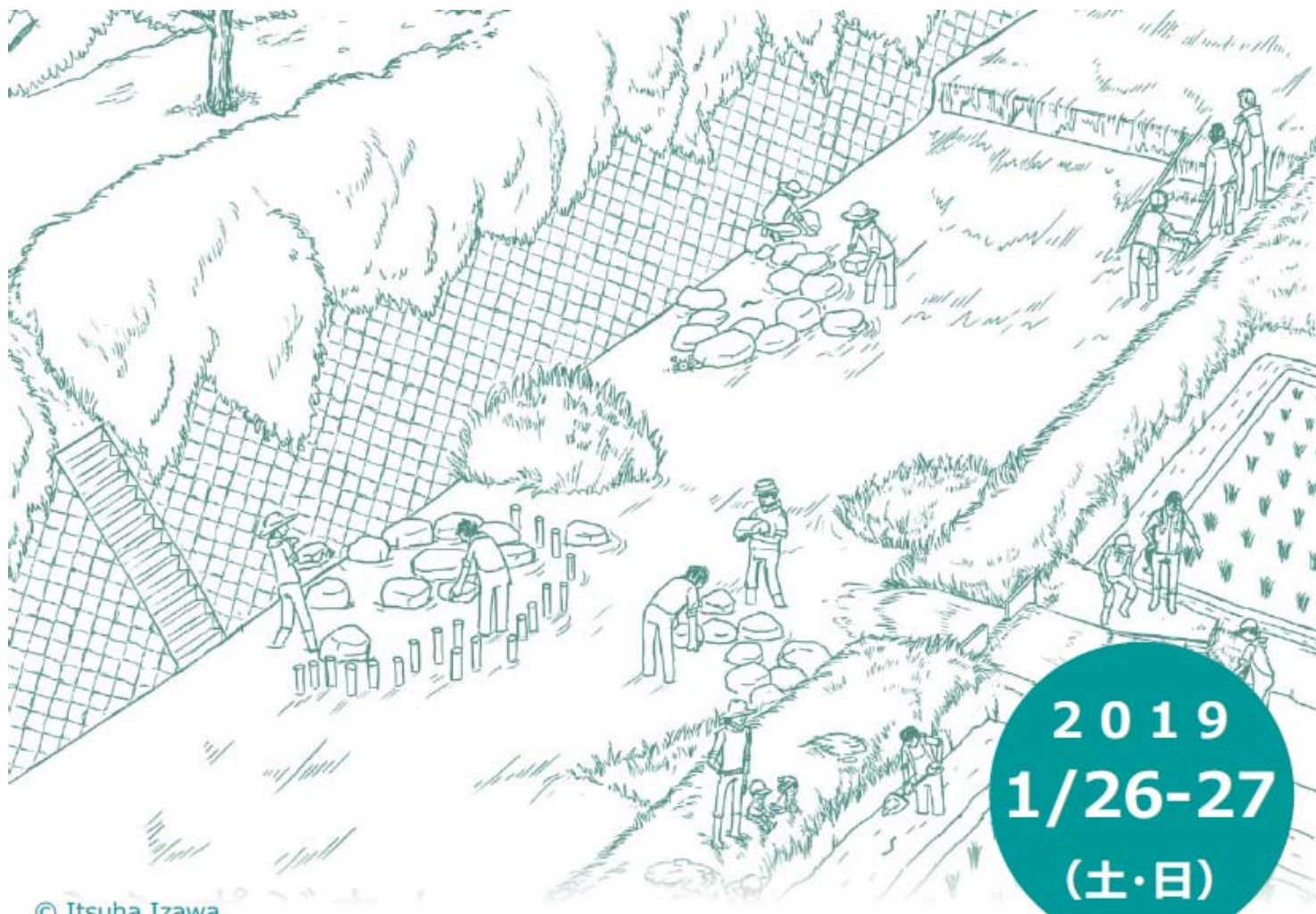
■募集締切：2018年11月12日（月）

■応募方法：Email で以下情報を記載の上、JRRN 事務局までお願いします。

- (1) 必要な情報：①発表者氏名、②発表者所属、③発表タイトル、④発表内容の概要（100文字以内）
(2) 送信先：JRRN 事務局 担当：後藤・和田（Eメール: info@a-rr.net）

■応募結果：

JRRN 事務局よりご連絡を差し上げ、調整後に事例発表者を決定させていただきます（11/16 発表予定）。



© Itsuha Izawa

小さな自然再生サミット 2019 神戸大会 ～できることから始めよう～ を開催します！

【日時】2019年1月26日(土) 13:00～18:00(サミット)、18:30～(懇親会)
27日(日) 9:00～11:00(現地視察@住吉川)

【場所】デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 1F ギャラリーA (サミット&懇親会)

【定員】300名(先着順です)

【参加費】無料(懇親会費は別)

【プログラム】※予定(変更の可能性あります)

10:00 開場(展示等の準備、参加者交流 ※自由来場)

13:00 サミット開会

開会挨拶: 玉井信行氏(東京大学名誉教授)

13:10 基調講演: 島谷幸宏氏(九州大学教授)

13:50 事例発表 ※発表事例は次頁参照

16:40 意見交換会

18:00 サミット閉会

18:30 懇親会 開会(～20時@同会場)

【サイドイベント】※予定

“iRICで学ぶ 川の流れ”

【日時】1/27(日) 13時～15時

【場所】KIITO 301 会議室

【講師】久加朋子氏(北海道大学)

【定員】25名(先着順です)

【参加費】無料

※受講者はノートPC 要持参

必要事項の詳細は後日連絡します

主催: 「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)



河川
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。



JRRN
Japan River Restoration Network

発表事例（15 事例を予定）

※以下の発表タイトルは暫定です。（11 月中旬に確定します）

- 【北海道】「よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性」（駒生川に魚道をつくる会）
- 【秋田県】「小さな自然再生を活用した多自然川づくり職員研修の取組み」（秋田県建設部 河川砂防課防災班）
- 【新潟県】「久知川におけるホタル復活の取組～バープ工の設置～」（新潟県 佐渡地域振興局 地域整備部 計画調整課）
- 【愛知県】「地域と行政の共働で取組む岩本川での“ふるさとの川づくり”」（豊田市矢作川研究所）
- 【滋賀県】「琵琶湖・家棟川にピワマスを取り戻せ！～多主体協働による保全・再生活 動の推進～」

（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

- 【兵庫県】「住吉川における『水辺の小わざ魚道』の取組みについて」（兵庫県神戸県民センター神戸土木事務所）
- 【岡山県】「魚もいない川なんて退屈すぎるぜ！ ～岡山・西栗倉村のクラウドファンディングによる挑戦～」（エーゼロ（株））
- 【高知県】「手作り魚道の試行錯誤とモニタリングがもつ可能性」（Sakanayama Lab.）

- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）
- 【 】「 」（ ）



11/12（月）まで
事例発表者を募集中！

■小さな自然再生サミット 事例発表者の募集ページは以下をご覧ください。

URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/971.html>

なお、本活動は（公財）河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

2018 年 11 月 16 日（金）より
サミット参加申込も開始します！
もうしばらくお待ちください。

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク－中国水利水電科学研究院・創立 60 周年記念行事報告



2018年10月17日(水)、中国・北京市内にて、中国水利水電科学研究院(IWHR)・創立 60 周年記念行事の一環で、水分野の国際組織の代表者による未来の水分野の展望を語り合う座談会「Round-Table Meeting of Leaders of Water-Related International Organizations」が開催されました。(表：主な参加組織)

本行事を主催するIWHRは、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の中国窓口である中国河川再生ネットワーク(CRRN)を運営する研究機関で、2006年のARRN設立以降、ARRN活動を通じてIWHRとJRRNは河川再生分野の技術交流を深めております。

※IWHR60周年ホームページ(英語版)：

http://60th.iwahr.com/sky60znxshdz/ywb/A6813index_1.htm

表－座談会への主な参加組織

- World Water Council
- International Commission on Large Dams
- International Association for Hydro-Environment Engineering and Research
- Global Water Partnership
- International Commission on Irrigation and Drainage
- World Association for Sedimentation and Erosion Research
- World Association of Soil and Water Conservation
- International Hydropower Association
- International Water Resources Association
- Chinese Hydraulic Engineering Society
- State Key Laboratory of Simulation and Regulation of Water Cycle in River Basin
- Asia Water Council
- **Asian River Restoration Network**
- American Geophysical Union
- UNESCO Beijing Office
- China Society for Hydropower Engineering
- International Center on Small Hydro Power
- International Seabuckthorn Association
- Global Water Partnership China
- Chinese National Committee on Irrigation and Drainage
- International Association for Hydro-Environment Engineering and Research China Chapter

本座談会には、ARRNより土屋信行(ARRN事務局長/JRRN代表理事)が出席し、以下の三つのテーマについて参加者と共に議論を深めました。

- (1) 水管理の意思決定を支援し、また国連の持続的開発目標を推進するための革新的研究開発について。
- (2) 利害関係者との対話を手助けするという国際組織の役割について
- (3) 国際的な協働と人材育成について

今後も、ARRN活動を通じて日本が培った河川再生に関わる経験を海外に還元し、世界の豊かな水環境の実現に貢献して参ります。



座談会に参加する土屋・ARRN事務局長(写真右)



座談会の様子と終了後の記念撮影

(JRRN事務局・和田彰)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

『自然共生研究センター開所 20 周年記念シンポジウム』のご案内 <11/21 (水) @岐阜>



寄稿者：坂本貴啓・中村圭吾（国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター・JRRN 会員）

自然共生研究センターは、平成 10 年 11 月 6 日に開所し、おかげさまで 20 年を迎えます。今月で 20 歳です！

これまで河川環境保全に関する研究・技術支援などを通じ、全国各地の川でその役割を果たしてきました。

20 年間の振り返りと今後の研究のあり方を考える機会として『開所 20 周年記念シンポジウム』を開催致します。皆さんと一緒に、河川環境の未来を考えたいと思っていますので、ぜひお誘いあわせの上、ご参加いただけますと幸いです。


**国立研究開発法人 土木研究所
自然共生研究センター**


開所 20 周年 記念シンポジウム

— これからの河川環境研究を展望する —

自然共生研究センターは、平成10年11月6日に開所し今年度で20周年を迎えます。これまで河川環境保全に関する研究・技術支援などを通じ、その役割を果たしてきました。一方で近年の多発する激甚な河川災害に対し、復旧時の多自然川づくりの必要性がより求められています。そこで、20年間の振り返りと今後の研究のあり方を考える機会として『開所20周年記念シンポジウム』を開催いたします。一般の方々にも理解しやすい内容となっております。専門家をはじめ一般の方々も奮ってご参加ください。



申し込み
締め切り
11月14日
(水)

参加費
無料
新設会も無料

開所20周年記念シンポジウム	実験河川見学会・研究会
2018年 11月21日 (水) 13時30分～17時00分 (受付13時～)	2018年 11月22日 (木) 9時00分～12時15分 (受付8時45分～)
場 所 岐阜市文化センター (定員 500 名) 内 容 1) 基調講演 辻本 哲郎 (名古屋大学名誉教授) 2) 自然共生研究センターの軌跡および研究報告 3) パネルディスカッション 『これからの河川環境研究はどうあるべきか』	場 所 自然共生研究センター および 実験河川 (定員 40 名 事前申し込み制) 内 容 1) 施設および研究案内・ガイドツアー 2) 研究会 『河川環境研究展望、これからの10年』



CPDS
488558
4 units

主催：国立研究開発法人 土木研究所 後援：国土交通省 中部地方整備局

● CPD・CPDS はシンポジウムにのみ付与されます。
 CPDSを申込された方は、受審証明書発行時にCPDS技術者証の提示をお願いいたします。
 CPDSは事前申し込みされた方のみが付与します (当日申し込みは不可)。
 ● 詳細・お申し込み：裏面参照 または 自然共生研究センターHPをご覧ください。

※詳細及び申込みはこちらから！ <https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2018/1121/index.html>

水辺からのメッセージ No.114

岡村幸二 (JRRN 会員)

地域が誇る庭園文化： 時代が大きく変わっても 庭園の魅力は変わらない



撮影：2018年10月（東京都文京区・肥後細川庭園）

◆装い新たに「肥後細川庭園」に

幕末は細川家の下屋敷でしたが、明治15年には細川家本邸の地形を活かした池泉回遊式庭園となりました。回遊式庭園とは周囲を歩きながら広がりのある池や背後の斜面林を鑑賞できる仕組みです。

◆時代とともに庭園風景は変化する

肥後細川庭園は、関口台地と神田川低地に挟まれた斜面緑地を背景につくられ、元もとは木々の梢の間から池や周囲の園地を見渡せていましたが、近年は木々が繁茂して森の中を回遊しているとやや見通しがきかなくなっています。庭園開設当初の樹林はどのような繁茂だったのでしょうか。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

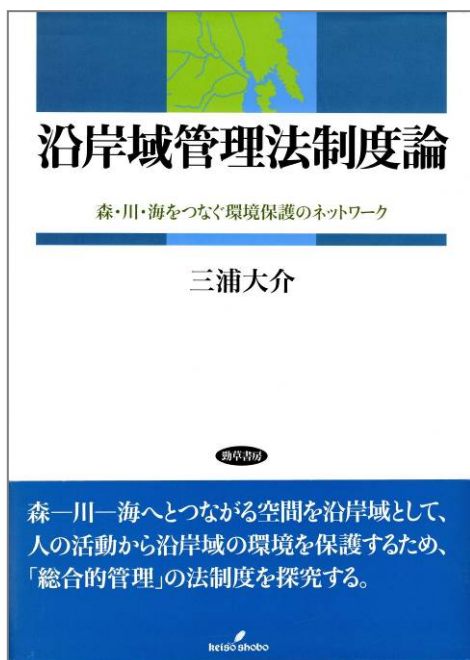
河川書の探求(7)

水辺空間の魅力

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. 河川法の改正

三浦大介著『沿岸域管理法制度論－森・川・海をつなぐ環境保護のネットワーク』(勁草書房・2015)は、森・川・海の連続した空間を沿岸域として捉えその自然環境保護を図るための「総合的管理」法制度の構築に必要な法制知識と諸問題の解決方法をテーマにしている。



この書で「河川法の歴史と仕組み」において、次のように述べている。

1896(明治 29)年、治水事業への要望が高まり、高水工事を中心とする治水対策を目的とした河川法が制定された。利水目的は制定されず、その後、日露戦争などによる需要が増大した水力発電に伴う河川流水の利用に対応できなかった。

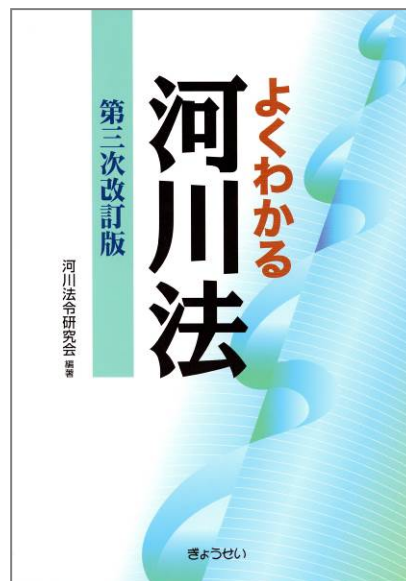
漸く戦後に復興需要のために、農林省等の利水に伴う法整備がなされ、1964(昭和 39)年水資源の総合的利用・開発に寄与するため従来の区間主義の河川管理体系から水系一貫管理へと移行し、利水関係規定の整備、ダムの設置、操作に起因する防災のための規定が設けられた。治水と利水を目的とした河川法の制定であった。

その後高度経済成長により、公害が発生し、川が汚れ、また治水対策として、都市部の中小河川はコンクリート三面張りの直線的な河川工事が施工された。このような状況から河川環境の視点重要視されるようになり、建設省(当時)は

1990(平成 2)年近自然工法・多自然型川づくり工法の採用を可能とする自然にやさしい、生態系が孤立しない河川環境の保全を打ち出した。

1997(平成 9)年河川法の改正において、河川環境の保全の目的が制定された。なおかつ河川整備計画の策定がなされた。河川環境の整備は、積極的に良好な河川環境を整備すること。河川環境の保全とは水質の維持や優れた景観を有するための区域の保全で、河川工事による環境に与える影響を最小限度に抑えるための代償措置が講じられることになった。

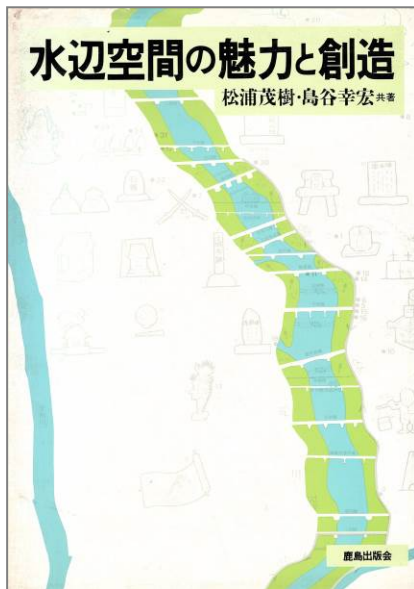
河川環境の復元のキーワードとして、水辺空間、多自然型かわづくり、親水、河川再生事業が挙げられる。河川法令研究会編著『よくわかる河川法』(ぎょうせい・2018)がある。



2. 水辺空間の魅力

松浦茂樹・島谷幸宏共著『水辺空間の魅力と構造』(鹿島出版会・1987)は、人と水の係り方について、①水神等を祀る信仰活動、②農業・林業・観光業などの生業活動、③洗濯・魚とりなどの生活活動、④治水・利水・清掃に伴う社会活動、⑤川を場とした創作活動、⑥川を社会科・理科の授業の教材とする教育活動⑦水辺におけるレクリエーション活動を挙げる。このような活動を与えてくれる重要な水辺は、都市化が進むにつれて減少していると分析する。そのために水辺空間の魅力について、河道の特徴を活かし、中ノ島、砂州などの利用で川に流れを作り川の歴史を調べ、表示する必要があると指摘する。

中岡義介著『水辺のデザイン』(森北出版・1986)は、三つ



の水の文化が異なる水辺をつくりだす。一つはオリエントの乾燥砂漠に展開された湧水文化で、噴水に代表される。二つめは、溢水文化でメソポタミア等の乾燥地帯に展開される、水は豊かに注ぐものとする。三つめは、水は無限に流れるとする日本の流水文化の展開である。山と谷がつくりだす複雑な風土とあいまって、日本人の自然観の基調をなす。これらの三つの水文化の観点から水辺空間を創造する。

さらに、水辺の再生をデザインする篠原修ら著『都市の水辺をデザインする』(彰国社・2005)。生態系の復元を図る中村太士編『川の蛇行復元－水理・物質循環・生態系からの評価』(技報堂・2011)は、アメリカのキシミー川、デンマークのスキーン、スロバキアのモラバ川の蛇行復元を論じる。また日本では、漂津川の蛇行復元の川づくりへの取り組みを捉える。ため池公園に都市空間をつくりだす、水辺空間を造りだす和田安彦・三浦浩之著『水辺が都市を変える』(技報堂・2005)は、それぞれ快適な水辺空間を創出する。ため池が農業用水の目的のみでなく、現代では、防災と親水の役割を持つことになってくる。

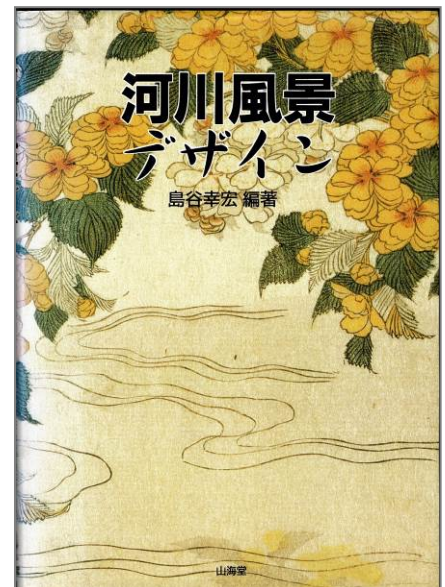
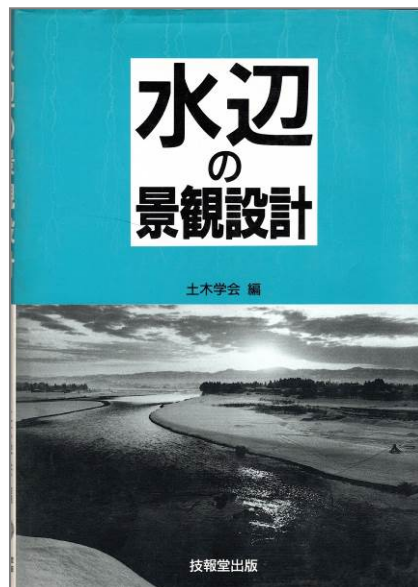
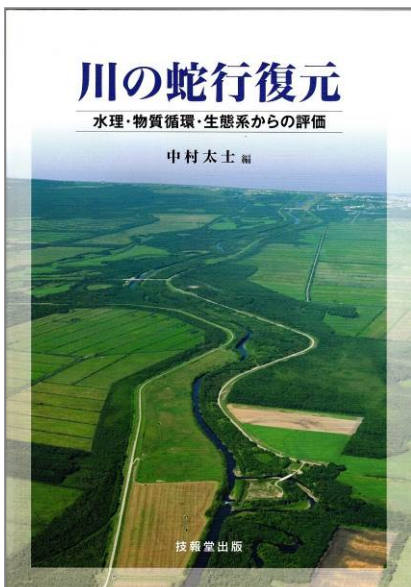
3. 河川景観の形成

河川景観を追求する土木学会編『水辺の景観設計』(技報堂・1988)では、河川景観の構成要素として、多種多様な要素がある。水面のさざなみ、岸辺の葦、河岸の松並木、屋根瓦と町並み、遠くの山も入る。さらにその要素として、河川と地域の係り方を含む。それは人間活動－人、自転車、船の動き、鳥や魚などの自然生態の生息の把握また必要である。これらをすべて含んだ河川景観の設計対象となる。

島谷幸宏編著『河川風景デザイン』(山海堂・1994)は、ヨーロッパ、アメリカ、日本の河川風景を実際にみて、コメントされている。日本の伝統的治水工についても、こまめに追及されていて、河川景観整備の計画・調査・設計を言及し、その河川計画設計手法を説いている。

吉村元男・芝原幸男共著『水辺の計画と設計』(鹿島出版会・1985)は、水防都市づくりとして「真間川流域水防都市構想」、親水公園として「古川親水公園」、「仙台堀川公園」、「更池・井沢池の修景」、「妙正寺川多目的遊水地」、「山城町不動川公園調整池」、「天ヶ瀬ダム・ダム湖周辺環境整備事業」等を捉えている。

「河川景観の形成と保全の考え方」検討委員編『河川景観デザイン』(リバーフロント整備センター・2008)がある。



JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2018年10月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 18 回 九州「川」のワークショップ in 緑川 (11/17-18 開催)

古賀河川図書館より、11月中旬に熊本で開催される九州川のワークショップ in 緑川の案内を頂きました。

■日時：2018年11月17日(土)、18日(日)

■場所：熊本県嘉島町民会館ホール「アクア」

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3208.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 21 回河川生態学術研究発表会 (11/16 開催)

公益財団法人リバーフロント研究所より、本年の「河川生態学術研究発表会」のご案内です。

■日時：2018年11月16日(金) 10:30~17:00

■場所：東京大学 弥生講堂・一条ホール(東京都文京区)

■主催：河川生態学術研究会、応用生態工学学会

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3231.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 15 回 柿田川シンポジウム (11/17 開催)

公益財団法人リバーフロント研究所より、11/17(土)に三島で開催される本年の「柿田川シンポジウム」のご案内です。

■日時：2018年11月17日(土) 13:00~17:00

■場所：三島市市民文化会館 ゆうホール3F(静岡県)

■主催：柿田川生態系研究会

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3242.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」(11/9~12/23 開催)

水の巡回展ネットワークより、東京での初開催展示となる巡回展のご案内です。

■日時：2018年11月9日(金)~12月23日(日)

■場所：荒川知水資料館(amoa)(東京都北区)

■主催：国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3258.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 199 回 河川文化を語る会『知的好奇心のスズメ～地図上のコンテンツからコンテクストを読む：埼玉の魅力・海と中小河川が刻んだ台地を歩く』(11/28 開催)

公益社団法人日本河川協会様より御提供頂いたイベント情報です。

■日時：2018年11月28日(水) 14:00~16:00

■場所：埼玉県県民健康センター 1F大会議室B(さいたま市浦和区)

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3250.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2018 年 9 月号) が事務局より届きました。

本号では、来年の RRC 総会の論文募集案内、RRC が主催を予定する4つの研修会の案内、また英国河川功労賞受賞者の活動等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3223.html>



会議・イベント案内 (2018年11月以降) Event Information

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第15回ふくおか水もり自慢! in 紫川

○日時: 2018年11月4日(日) 10:00~17:00
 ○主催: 第15回ふくおか水もり自慢! in 紫川 実行委員会
 ○場所: 北九州市水環境館、北九州市立生涯学習総合センター (福岡県北九州市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2849.html>

■第17回北信越現地ワークショップ in 福井「福井の水辺環境の再構築をめざして ~恐竜がいた時代と現在、未来へ~」

○日時: 2018年11月9日(金) 10:30 ~ 17:00
 ○主催: 応用生態工学会福井、応用生態工学会
 ○場所: 福井県立大学交流センター講堂 永平寺キャンパス (福井県吉田郡永平寺町)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2853.html>

■応用生態工学会札幌セミナー2018「気候変動と人口減少にいかに対応するか〜グリーンインフラ〜」

○日時: 2018年11月13日(火) 13:30~17:45
 ○主催: 応用生態工学会札幌
 ○場所: 道民活動センターかでる2・7 (北海道札幌市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2861.html>

■応用生態工学会金沢 研修会「DNA を用いた生態系調査〜その基礎から環境 DNA まで〜」

○日時: 2018年11月16日(金) 13:30~17:00
 ○主催: 応用生態工学会金沢
 ○場所: 石川県勤労者福祉文化会館 2階 (石川県金沢市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2859.html>

■荒川上流部改修100周年シンポジウム

○日時: 2018年11月21日(金) 13:00~16:30
 ○主催: 荒川上流部改修100周年実行委員会
 ○場所: 川越市やまぎき会館 中ホール (埼玉県川越市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2863.html>

■第1回小さな自然再生サミット 2019 神戸大会

○日時: 2019年1月26日(土) ~27日(日)
 ○主催: 「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
 ○場所: 神戸デザイン・クリエイティブセンター (兵庫県神戸市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/934.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています!

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 (JRRN 会員著作の新刊案内) Publications

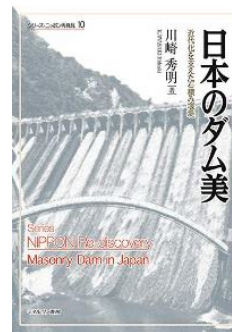
■「川に生きる 世界の河川事情 (2018.9)」



本書は中日新聞・東京新聞で3年間に渡り連載されたコラム「川に生きる」を書籍化したもので、多様な生物が生息する川と人との関係が描かれています。

- 書名: 川に生きる 世界の河川事情
- 著者: 新村安雄 (JRRN 会員)
- 頁数: 192
- 発刊日: 2018年9月14日
- ISBN: 4806207489, 978-4806207481
- 定価: ¥1,404
- 出版社: 中日新聞社

■日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤 (2018.10)



本書では、「石積みダム」の歴史・分類や背景、また石積み堰堤目録からダムの雑学まで、その魅力が存分に語り尽くされています。

- 書名: 日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤
- 著者: 川崎秀明 (JRRN 会員)
- 頁数: 320
- 発刊日: 2018年10月
- ISBN: 9784623083121
- 定価: ¥2,376
- 出版社: ミネルヴァ書房

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話: 03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

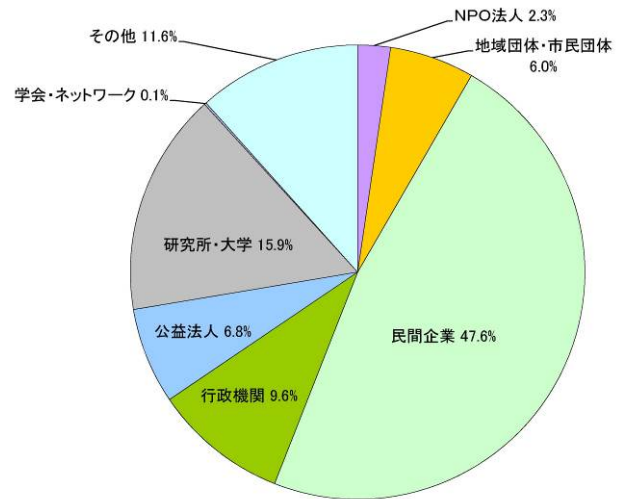
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年10月31日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：790名、団体会員数：60団体）

※10月の新規入会数：個人会員4、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

